

基本施策 4 認知症の人にやさしい地域づくりの推進

●背景

認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現すべく2012年から「認知症施策推進5ヶ年計画」(オレンジプラン)を改め、新たに2015年から「認知症施策推進総合戦略」(新オレンジプラン)が策定されました。認知症高齢者等にやさしい地域づくりを推進していくため、7つの柱に沿って、施策を総合的に推進するものです。町田市では、オレンジプランに基づき、軽度認知症の方への支援強化、認知症の早期診断・早期対応の支援、認知症の生活機能障害にあわせたサービス体制の整備、認知症高齢者や家族をサポートする仕組みを進めてきました。これらの施策が推進されていることにより認知症の早期対応の仕組みづくりや、認知症の人やその家族が参画するための場づくりが進んできました。今後は、さらに認知症の人と家族が参加しやすい地域づくりを重点的に進める必要があります。

4-① 認知症の人やその家族の視点を重視した取り組みの推進【重点】

主な取り組み	認知症の人やその家族の視点に立ったネットワークや社会参加の仕組みづくり
<p>○取り組み内容・目的</p> <p>【目的】認知症の人やその家族の視点が尊重されるためのネットワーク作りや理解促進のための活動を支援する。</p> <p>【内容】初期段階の認知症の人のニーズを把握し、本人や家族の視点を取り入れた居場所づくり(Dカフェ)、生きがい支援(D活)、認知症の人が自ら認知症の情報を得る場として図書館を活用した取り組み(Dボックス)を進めていく。</p> <p>また、認知症を理解促進するための活動として、認知症の人にやさしい地域づくりを進めるための指標(iメッセージ)を地域全体で共有し、認知症にやさしい社会への理解を深めるキャンペーンなどの開催を支援する。</p> <p>○第6期の進捗状況</p> <p>【Dカフェ】町田市オリジナルの認知症当事者が企画段階から関わる活動の普及・支援。毎回場所や内容を変えながら、地域に出て行くスタイルの認知症カフェを開催しました(2016年度は市内4圏域、年4回開催)。</p> <p>【Dボックス】市内2か所の図書館で実施しました。</p> <p>【D活】認知症の人の生きがいや“はたらく”ことについての検討会を年3回実施しました。</p> <p>【認知症の人にやさしいまちづくり指標】認知症の人や家族、地域の様々なセクターの方が集まり、認知症の人に優しいまちづくり指標として、認知症の人の視点にたった16のiメッセージを作成しました。</p> <p>○課題</p> <p>認知症の人と家族が、社会参加しやすい仕組み作りが必要です。そのためには、認知症の人と家族、市民が共に認知症に関わる活動に参加するためのネットワーク作りを進めることが重要です。</p> <p>それらのネットワークづくりを進めるにあたり、地域全体が認知症の理解と、認知症の人にやさしい地域をめざすことが大切です。そのため、世代を超えた多くの市民に認知症を自分ごととしてとらえるための周知、理解促進を進める必要があります。</p> <p>○今後の方向性</p> <p>認知症の人と家族の社会参加を進めるため、認知症の人と家族、市民が共に関わる活動に参加するための様々な仕組み作りについて、検討していきます。また、社会参加がしやすい地域づくりの取り組みにむけ、認知症の理解を深めるための土壌づくりとしてビジョンを共有し、認知症の人にやさしい地域づくりを推進していきます。</p>	

認知症の人にやさしいまちづくり指標(16のメッセージ)			
1	私は、早期に診断を受け、その後の治療や暮らしについて、主体的に考えられる。	9	私は、しごとや地域の活動を通じて、やりたいことにチャレンジし、地域や社会に貢献している
2	私は、必要な支援の選択肢を幅広く持ち、自分に合った支援を選べる。	10	私は、認知症について、地域の中で自然に学ぶ機会を持っている
3	私は、望まない形で、病院・介護施設などに入れられることはない。望む場所で、尊敬と敬意をもって安らかな死を迎えることができる。	11	私は、経済的な支援に関する情報を持っており、経済面で生活の見通しが立っている
4	私は、私の言葉に耳を傾け、ともに考えてくれる医師がいる。	12	私は、地域や自治体に対して、自分の体験を語ったり、地域への提言をする機会がある
5	私は、家族に自分の気持ちを伝えることができ、家族に受け入れられている。	13	私は、認知症であることを理由に差別や特別扱いをされない
6	私の介護者は、その役割が尊重され、介護者のための適切な支援を受けている	14	私は、行きたい場所に行くことができ、気兼ねなく、買い物や食事を楽しむことができる
7	私は、素でいられる居場所と仲間を持っており、一緒に時間を楽しんだり、自分が困っていることを話せる	15	私は、支援が必要な時に、地域の人からさりげなく助けてもらうことができる
8	私は、趣味や長年の習慣を続けている	16	私たちも、認知症の人にやさしいまちづくりの一員です。

4-② 認知症早期対応・受診の支援の充実【重点】

主な取り組み	早期相談・受診の体制の充実
<p>○取り組み内容・目的</p> <p>【目的】認知症の容態に応じて定時・適切に、医療・介護を提供するために、早期診断、早期対応の体制を構築する。</p> <p>【内容】認知症になってもなかなか医療受診や介護サービスに結びつかない高齢者や家族のもとへ、医療・介護の専門職で構成されたチームが、認知症に関する様々な相談に対応する初期集中支援チームの個別訪問、身近に認知症の事を相談できる認知症電話相談窓口の実施、認知症について気になってきたが、病院に行くまでではないと感じている方、または病院に行くことを考えているが、その前に少し認知症について相談しておきたい方などを対象にしたもの忘れ相談の定期実施。</p> <p>○第6期の進捗状況※2016年度実績</p> <p>【認知症初期集中支援チーム訪問数】111件 【認知症初期集中支援チーム チーム員会議】20回 【認知症電話相談件数】349件 【医師によるもの忘れ相談件数】216件 【臨床心理士による介護者等相談】196件 【医療連携会議】年2回 【認知症ケアに関わる多職種共同研修】年1回</p> <p>○課題</p> <p>引き続き早期対応に向けた適切なサービス(医療・介護)につなげていくため、医療や介護等、関係機関が有機的に連携し、認知症本人や家族が異常を感じたときに速やかに、適切な機関に相談できる体制が必要です。</p> <p>○今後の方向性</p> <p>認知症ケアにおける医療と介護の連携をはかるための研修を引き続き行っていきます。また、医療機関によって対応が異ならないよう、市内4つの初期集中支援チームが課題共有をするための医療連携会議を引き続き行っていきます。また、もの忘れ相談や地域ケア会議などを通じて対象者の把握を行うだけでなく、各専門職(かかりつけ医、看護師、ケアマネジャー、ヘルパー等)、および地域(民生委員、自治会、企業等)との連携をより一層深め、さらなる対象者の把握に努めていきます。</p>	
<p>認知症初期集中支援チーム チーム員会議</p> 	
<p>認知症ケアのための多職種研修会</p> 	